

修士学位論文要旨

(通信制) 保健科学研究科

学生番号 M971405

氏名 鈴木 渉

作業療法で用いられる理論と実践手法に関する教育が 卒後の職業的アイデンティティに及ぼす影響

背景と目的

多職種間の連携や協働といった概念は、近年の保健医療福祉の場においてかなり浸透しているが、それを阻害する要因は多く、多職種間の意見がかみ合わないなどの問題がある。この問題の解決には、他職種の役割を理解し、共通の目標で連携や協働をすることが重要である。そのためには、専門職としての他の職種との差異を明確化し、独自性を提示する必要がある。自らの専門職としての独自性を認識するために、職業的アイデンティティ（以下、PI）の構築が必要であると考えられる。しかし、作業療法士（以下、OTR）は歴史的にアイデンティティの脆弱さを抱え、問題視されてきた。OTRのアイデンティティの探索に関する一つの答えとして、それまで主流であった医学・治療モデルの発想である還元主義的な捉え方と、それを批判するかたちで現れた海外の理論や考え方（人間作業モデル、カナダ作業遂行モデルなど）との対比することで、作業療法（以下、OT）の特徴を明確にしてきたことが報告されている。したがって、OTRのPIを構築し、多職種間との連携や協業を可能にするために、これらOT独自の理論と実践手法（以下、OT独自の理論等）の教育を推進する必要があると考えられる。OTで用いられるOT独自の理論等の教育がPIに及ぼす影響について、養成教育が及ぼす影響の報告がわずかにあるものの、卒後教育や実践経験がPIに及ぼす影響については明らかにされていない。本研究の目的は、OTで用いられる理論と実践手法に関する教育が臨床実践を通してどのように卒後のPIに影響を及ぼすのかについて、理想とするOTRの存在による影響を含めた仮説モデルを検証することである。

対象と方法

全国の4年制OTR養成校14校の教員とその卒業生で身体障害領域または高齢者領域に勤務する臨床経験が3年目までのOTR207名を対象とした。調査内容は、卒業生の基

本属性と職業経験, PI 尺度, 卒前・卒後の教育内容と実践経験とした。また, 各養成校の OT 専門教育を担当する OTR 国家資格を有した全教員から養成校の教育内容を調査した。PI 尺度の項目特性を推定するために, 項目得点多列相関を用いて尺度の一次元性を確認後, 項目反応理論 (以下, IRT) によって分析した。また, PI 尺度のカテゴリカル確認的因子分析 (以下, C-CFA) により, 構造的妥当性の検証を行った。最後に構造方程式モデリングの多重指標モデルを実施し, OT 独自の理論等の教育とその実践経験が OTR の PI に影響を及ぼすかについて, 理想とする OTR の存在を含めた仮説モデルを検証した。調査期間は平成 27 年 12 月から平成 28 年 6 月末日の間であった。

結果

PI 尺度の項目得点多列相関では, 全ての項目で基準値 0.2 を超えていた。IRT では困難度と識別力は基準の範囲内であった。PI 尺度の C-CFA では, 高次因子を設定した二次因子モデルの適合度は良好であった (RMSEA=.076, CFI=.916, TLI=.910)。多重指標モデルを実施した結果, 卒後の OT 独自の理論等の教育から実践経験に引いたパスの標準化係数は 0.850, 実践経験から PI に引いたパスの標準化係数は 0.218, 現在理想とする OTR の存在から PI に引いたパスの標準化係数は 0.293 でそれぞれ有意となり, 新たに基本属性の性別から PI に引いたパスの標準化係数も 0.239 と有意であった。このモデルの適合度は良好であった (RMSEA=.048, CFI=.941, TLI=.937)。

考察

項目得点多列相関の結果から, PI 尺度の構成概念に一次元性が確認された。IRT の識別力, 困難度の値より, 全項目が適切に機能していると判断され, 回答者の測定精度は高いことが明らかとなった。また, C-CFA の結果から, RMSEA がやや大きいものの, 4 因子 29 項目の二次因子モデルで適合していた。したがって, PI の構成概念を適切に評価することができる十分な構造的妥当性があると考えられる。多重指標モデルの結果より, OT 独自の理論等の卒後教育を受け, その実践経験を経ることに加え, 現在理想とする OTR の存在のみではなく, 性別も PI に影響を及ぼすことが明らかになった。卒前の教育内容や他領域と共通の実践手法は, 卒後の PI に影響を及ぼさなかった。したがって, OT 独自の理論等の卒後教育を充実させることが必要であると考えられる。そのためには, 養成校と臨床施設の連携を強化し, 卒後のフォローアップ教育を充実させる必要があると考えられる。これらの教育体制の充実が OTR の PI を高め, 保健医療福祉分野において多職種間の連携や協働に貢献できるものと考えられる。